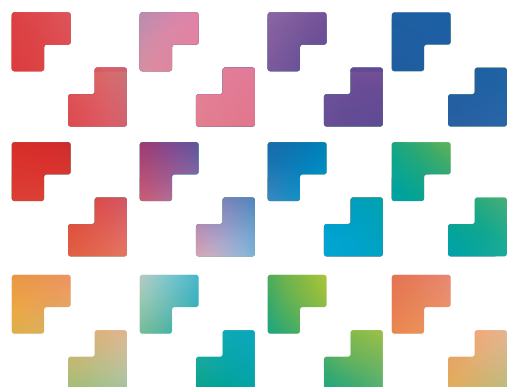


Hasso Camp **Project** **三三イ**

プロジェクトレポート2024

Hakuhodo DY holdings



Hasso Camp

きみの視点は、みんなの始点だ。

INTRODUCTION

Hasso Campは、博報堂DYグループが提供する
中高生向けの探究学習プログラムです。

「きみの視点は、みんなの始点だ。」をスローガンに、
博報堂DYグループのさまざまな専門分野の社員が講師として参加し、
「生活者発想」と「クリエイティビティ」を通じて、
中高生が正解のない時代に未知なる答えを導き出す
「発想力」を育てていきます。

Hasso Camp

2つのプログラム

年間を通して応募でき
学校単位で実施するプログラム

Hasso Camp

対象 中・高生(学校単位)

独自のフレームワークを用いて、新たな視点を発見したり、アイデアを発想することに挑戦するプログラム。「社会の課題」「地域の課題」「自身の課題」などのテーマを通して、「発想力」を高めます。

長期の休み期間中に
高校生が個人で参加できるプログラム

Hasso Camp Projectミライ

対象 高校生(個人)

次世代生活者である高校生と博報堂DYグループ社員がひとつのチームになり、複数回かけて社会的テーマに挑戦するプログラム。実践の中で「発想力」と「創造性」を高めます。

PICK
UP!



INDEX

1. Hasso Camp Projectミライ2024のテーマ …………… P5

2. 3DAYSの対話・インプットの内容 …………… P14

3. 新しい居場所づくりへの示唆 …………… P37

CHAPTER 1

Hasso Camp Projectミライ2024のテーマ

新しい“Ibasho”を創りだせ！

“居場所がある”という感覚を、日本は昔から大事にしてきました。
世界でも“Ibasho”と表現されるこの言葉には、
場所としての機能だけでなく、
安心できる精神的なつながりという意味もあります。

しかし最近では、授業も交流関係もオンライン化。
便利になった反面、人と人のつながりが気薄になりつつあります。
これまでの“Ibasho”にも、課題が生まれはじめています。

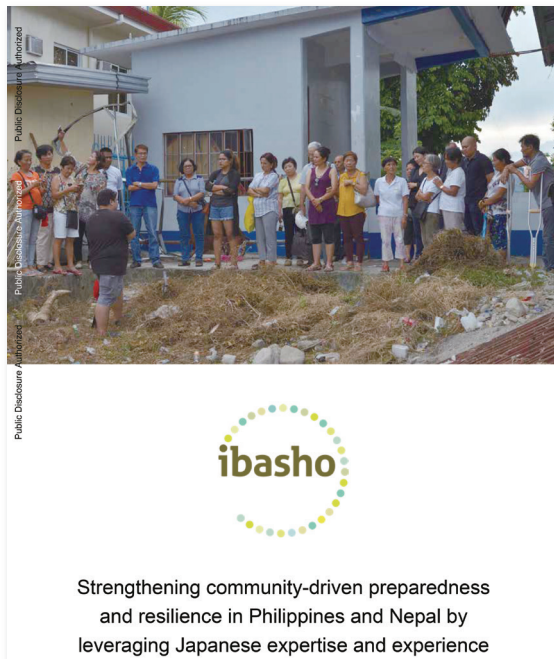
これからの私たちに必要な
新しい“Ibasho”のカタチとは？
今こそ、みんなで発想してみませんか。



実は、「Ibasho」は世界共通語

日本では“居場所がある”という感覚を、昔から大事にしてきましたが、近年では世界でも居場所の必要性が注目されています。

世界銀行が2019年に「ibashoレポート」を刊行

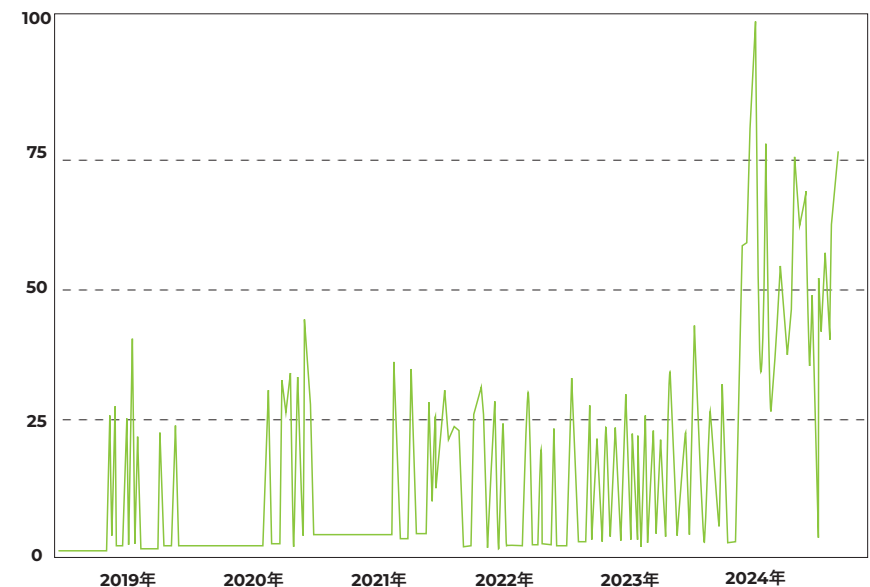


「ibashoレポート」では、日本の「居場所」の概念に着目し、日本の専門知識と経験を活用しながらフィリピンとネパールにおいて、コミュニティ主導で災害への備えと回復力を強化する取り組みについて掲載されています。自然災害が多発する中で増加する高齢者をどのようにケアするかという喫緊の課題に対し、政策での対応のほか、現場での市民参加の必要性が語られています。

▲世界銀行刊行のibasho report

出典:Kiyota,Emi. *Ibasho*. WORLD BANK GROUP.2020,

「Ibasho」の世界での検索数は近年増加傾向



「Ibashoレポート」が刊行された2019年を境に、年々検索数は増加しています。特に2020年のコロナ禍以降、その関心が急激に高まっていることが明らかです。

出典:「Ibasho」というワードの検索インデックス (Googleトレンドより)

改めて注目されている居場所づくり

孤独や孤立を実感する機会の増加や高齢化の中での
自然災害の多発などによりその重要性が見直されています。

生活者の4割が孤独・孤立を実感

令和5年の「内閣官房孤独・孤立対策担当室」の調査によると、生活者の約4割が孤独や孤立を感じていることがわかりました。特に20代から50代で孤独感が高く、現在の孤独感に影響を与えたと思う出来事を見ると、「家族との死別」、「ひとり暮らし」、「心身の重大なトラブル(病気・怪我等)」などが挙げられます。また、コロナ禍で対面交流が減少し、外出頻度が低いほど孤独感が高まることも明らかにされています。このため、社会全体での支援や孤立解消への取り組みが急務となっています。

市民参加型の地域レジリエンス向上の ヒントとして世界的にも注目

さまざまな観点から安心できる場所や人とのつながりを意味する「居場所」は、災害後の地域社会のレジリエンス(回復力)を高めるヒントとしても注目されています。フィリピンやネパールでは、日本の「居場所」モデルが取り入れられ、特に高齢者が中心となってコミュニティを支える取り組みが進められています。例えば、震災で被害を受けた地域(岩手県大船渡市)で立ち上げられた「居場所ハウス」は、多世代が集い、互いに支え合う場として機能し、災害に強いコミュニティの構築に貢献しています。

●孤独の状況(間接質問)

	常にある	時々ある	ほとんどない	決していない	無回答
令和5年	6.9	40.1	38.5	13.7	0.8
令和4年	7.1	41.6	37.0	13.5	0.9
令和3年	6.3	37.1	37.4	18.5	0.7

出典:内閣官房孤独・孤立対策担当室.人々のつながりに関する基礎調査(令和5年) 調査結果の概要.2024, p.6.



出典:居場所ハウス(NPO法人居場所創造プロジェクト運営)

「つながり」が「しがらみ」に転化するジレンマも

「つながりたいけど、しがらみは嫌」という心理は根強く

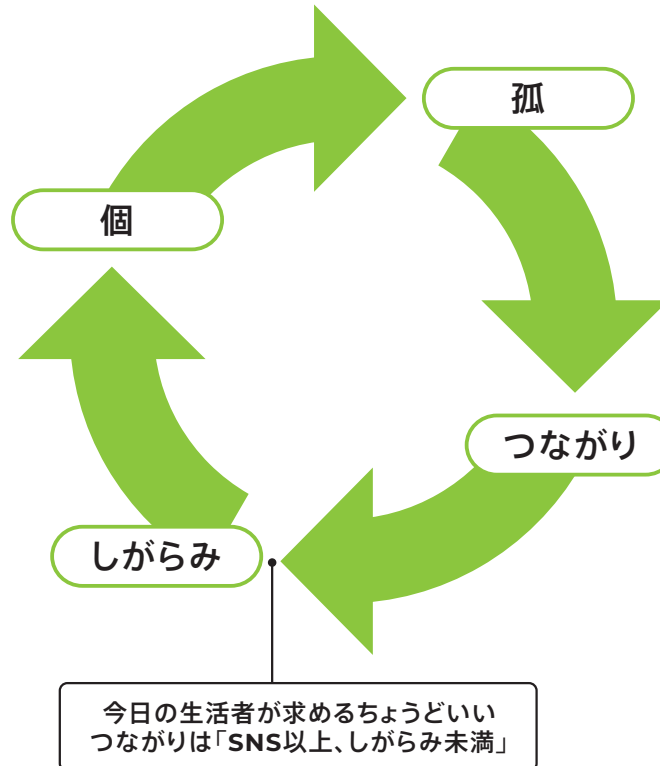
求められるのは、このジレンマ下における“ちょうどいい”居場所。

①「しがらみ」から抜け出し「個」を求めて

1960年代の高度経済成長期、70～80年代の消費社会では、「前近代的」とされた「地域のしがらみ」から抜け出し、個人の自由や自己表現を重視する動きが広がりました。生活者は消費スタイルやライフスタイルにおける自分らしさを追求し、「隣近所の顔もわからない。それが現代の暮らし」と新たな生活スタイルを受け入れました。

④「しがらみ」に転化しない「つながり」とは？

しかし「つながり」は「しがらみ」に転化するリスクをはらみます。「面倒なことになるとイヤだな」と思えば、交友にも恋愛にも慎重になります。SNSのように簡単に「ブロック」できないと思うと、リアルな人間関係には慎重にならざるを得ません。でもSNSだけでは物足りません。だから私たちは今、「しがらみに転化しにくいリアルなつながり方」を模索しているのだと思います。



②「個」が強化されると「孤」(孤独)へ

1990年代のバブル崩壊以降、「失われた30年」とも言われる経済停滞、および超少子高齢化や人口減少などの人口動態の変化の中で、生活者はじわじわと「個人のコは、孤立のコでもある」と認識を変化させていきました。多様性が称揚される一方で、多様性がもたらす「違い」を受け止めきれずに戸惑い苦しみ、孤独・孤立を感じる場面も増えてきました。

③「孤」(孤独)から「つながり」を求めて

2011年の東日本大震災が象徴的な転機となり、2010年代以降、「孤独孤立からつながりへ」と生活者の意識が向かい始めました。「つながり」「交流」がキーワードとなり、シェアエコノミーが発達するとともに、地域でのつながりや助け合い、絆を重視する動きが多分野・多方面で同時多発的に起こっています。

出典：湯浅 誠氏作成資料をもとに加工

本プログラムでは、有形・無形を問わず、
「社会的居場所」における新しい居場所のあり方を考えました

社会的居場所

他者との関わりをもつことで
自分を確認できる場所



個人的居場所

他者との関わりから離れて
自分を取り戻せる場所



出典:湯浅 誠. 2023 居場所の政策論<試論>~こども食堂を切り口に考える~ 地域福祉研究, 51, 2023, p.32-44.

居場所に関するプロフェッショナル認定NPO法人 全国こども食堂支援センター・むすびえとプログラムを設計

【認定NPO法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ】について



こども食堂は、子どもがひとりでも 行ける無料または低額の食堂

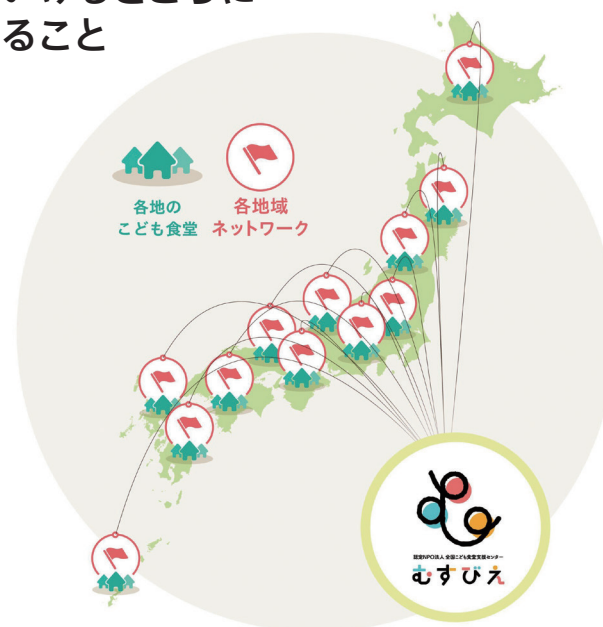
こども食堂は民間発の自主的・自発的な取り組みのこと（「地域食堂」「みんな食堂」という名称のところもあります）です。運営を支援する公的な制度などが整備されていないのが現状ですが、こども食堂の数は増加の一途をたどり、今では全国の公立中学校を超え、約1万箇所にのぼります。

目指すのは、子どもが歩いていけるところに
安心・安全なこども食堂があること

「むすびえ」は、各地域でこども食堂を支える地域のこども食堂ネットワーク団体（中間支援団体）がより活動しやすくなるよう後押しする団体です。全国のこども食堂をサポートするために、3つの活動を行っています。

- 1 地域ネットワーク支援事業
- 2 企業・団体との協働事業
- 3 調査・研究事業

企業や団体とこども食堂をつなぎ、こども食堂の意義や実態を伝えるための調査・研究を行い、社会的な理解を広げる役割も果たしています。子どもたち、こども食堂、そして支援者をつなぐ「むすびめ(場)」として、三者の橋渡しを目指しています。



博報堂DYグループの中から「居場所」をテーマに スペシャリストが集結

プロジェクトリーダー

・HAKUHODO・

「生活者発想」と「パートナー主義」というフィロソフィーのもと、クリエイティビティの力で、広告領域のみならず経営・事業から社会 이슈まで、あらゆる領域の課題解決をお手伝いしています。



今井 郁弥
●イノベーション
プランニング
ディレクター

博報堂DYグループスペシャリスト

Gehl

Gehl社(本社:コペンハーゲン)は、人間中心の都市開発における戦略策定/デザインの専門組織として、世界を代表する会社です。



Sophia Schuff
●ポートフォリオ
ディレクター



中村 賢昭
●アーバンストラテジスト
アクティベーションディレクター
(開催時:YOMIKOより出向)



まちへの愛着心をデザインするCIVIC PRIDE®コンサルティングをはじめ、SIGNING、環境計画研究所とともに、場を通じた新たなビジネス機会を探るiBASHOプロジェクトなどを推進しています。



藤田 剛士
●ストラテジック
プランナー



秦 瞬一郎
●ストラテジック
プランナー/
コンテキストデザイナー

テーマ支援/協働団体



認定NPO法人 全国子ども食堂支援センター

むすびえ

子ども食堂の支援を通じて、誰もとりこぼさない社会の実現を目指して活動するむすびえは、その居場所としての価値も大切に考えています。



湯浅 誠
●むすびえ理事長、社会活動家、東京大学先端科学技術研究センター特任教授、経済同友会会員、子ども家庭庁「子ども家庭審議会 子どもの居場所部会」委員

HAKUHODO CONSULTING

博報堂コンサルティングは、「ブランドの力で、人と企業の想いをむすび、社会の可能性をひらく。」をパーパスに、ステークホルダーから期待される「ブランド」が生まれる仕組みをデザインする、経営コンサルティングファームです。



岩佐 数音
●コンサルタント

全国から集まった22名の高校生とアイデアを共創

「高校生にとって、ちょうどいいつながりを保てる新しい居場所のアイデア」を具体的なテーマに設定し、高校生と博報堂DYグループのメンター社員がチームになり、アイデアを一緒に考えました。



CHAPTER 2

3DAYSの対話・インプットの内容

8月1日(DAY1) / 8月6日-8日(DAY2) / 8月26日(DAY3)

プログラムの全体像

8/1

DAY 1

議題

居場所の役割の再確認/
新しい居場所の仮説検討

内容

- イントロダクション
- Projectの説明/自己紹介/他
- 居場所とは(むすびえ/読売広告社)
- チーム内での対話
- リサーチ手法を学ぶ(博報堂コンサルティング)
- 仮説検討/DAY2の準備

8/6-8

DAY 2

議題

居場所づくりの
現場理解・実感

内容

- イントロダクション
- フィールドワーク
(こども食堂の見学/ヒアリングなど)
- クロージング

8/26

DAY 3

議題

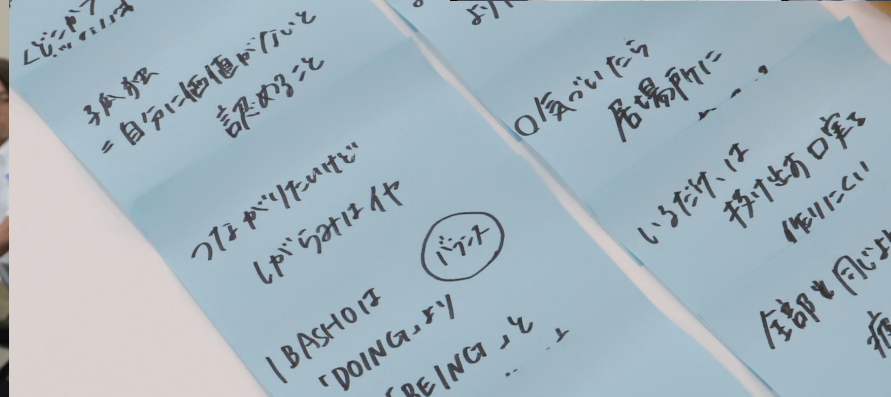
新しい居場所の
アイデア発想/全体発表

内容

- DAY2振り返り
- アイデア発想/プレゼンテーション準備
- プレゼンテーション
- 海外事例を学ぶ(Gehl)
- 講評
- クロージング

※各日事前課題あり

DAY 1



DAY 1

Time Table

全プログラムの流れ

DAY 1 ● 居場所の役割の再確認
● 新しい居場所の仮説検討



DAY 2 ● 居場所づくりの現場理解・実感



DAY 3 ● 新しい居場所のアイデア発想/全体発表



高校生にとって、ちょうどいつながりを保てる
新しい居場所のアイデア

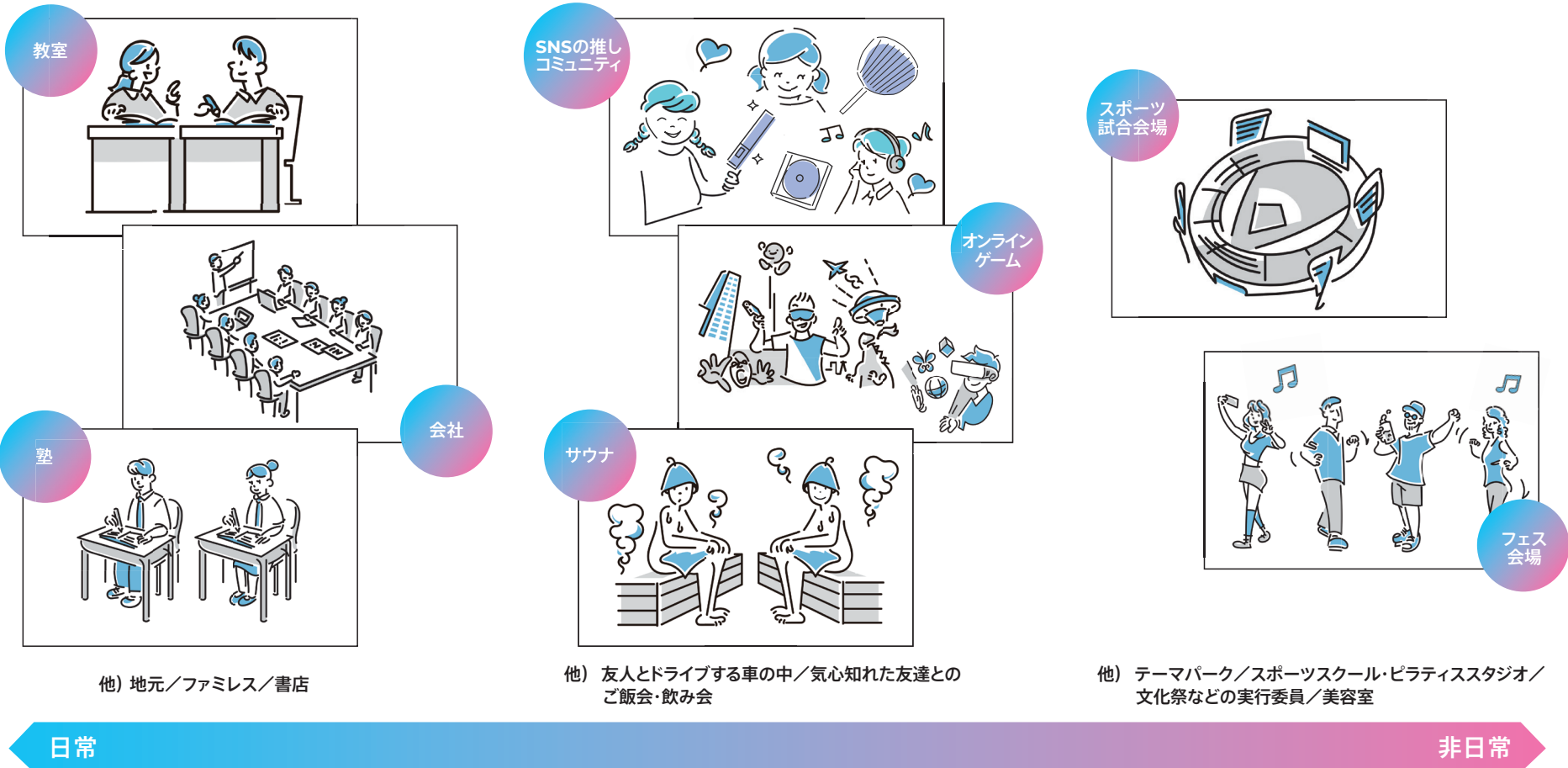
全3日にわたって行われるプログラムの初日は、全国から集まった高校生たちが打ち解けてリラックスできるよう、自己紹介を兼ねたアイスブレイクからスタート。その後、ダイアログとインプットを重ねながら、「居場所の役割の再確認 & 新しい居場所の仮説検討」を行いました。

当日の流れ

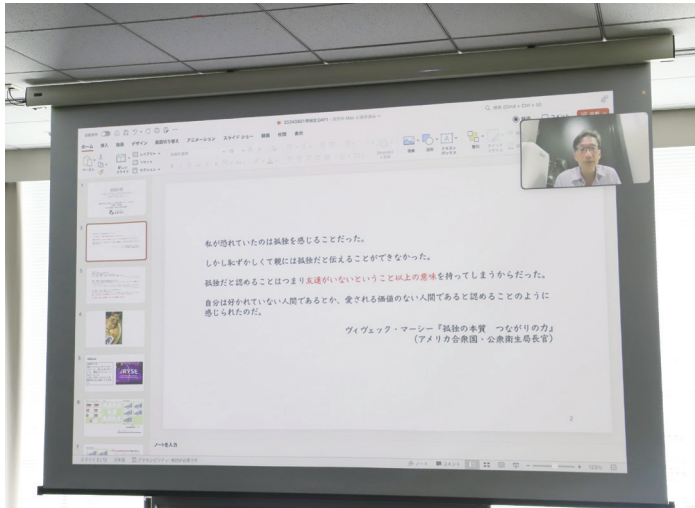
- **ダイアログ①**
居場所観の整理
- ▼
- **居場所に関するインプット①**
湯浅 誠さん【認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ】
- ▼
- **居場所に関するインプット②**
藤田 剛士さん/秦 瞬一郎さん【読売広告社】
- ▼
- **ダイアログ②**
居場所と感じるための大切な要素の抽出
- ▼
- **リサーチ手法インプット③**
岩佐 数音さん【博報堂コンサルティング】
- ▼
- **ダイアログ③**
ターゲットインサイトの洞察 / フィールドワークに向けた準備
- ▼
- **クロージング**

高校生と社員が考える 自分にとっての居場所

事前課題として「自分にとっての居場所」を考えて持ち寄りました。
物理的な空間の有無を問わず、多様な居場所があることがわかります。



INPUT [テーマ]居場所とは何か。なぜ必要か



認定NPO法人 全国子ども食堂支援センター
むすびえ 理事長
湯浅 誠さん(オンライン)

PROFILE
社会活動家、東京大学先端科学技術研究センター特任教授、経済同友会会員、子ども家庭庁「子ども家庭審議会 子どもの居場所部会」委員。1990年代よりホームレス支援に携わり、内閣府参与、法政大学教授などを歴任。著書に『つながり続ける 子ども食堂』など。



居場所はどんな人でも よりたくさんあるのが理想

居場所とは、「誰かにちゃんと見てもらえている、受け止められている、尊重されている、つながっている」と本人が感じられる関係性のある場のことです。さらに、たくさんあることも重要です。

内閣府の調査でも、「居場所」がひとつではなく複数あることで、自己肯定感や充実感、チャレンジ精神が高まり、居場所が多いほど社会貢献意欲が高まることも示されています。つまり、どんな人に対しても「複数の居場所」があることが理想であり、学校や家庭だけでなく地域なども居場所として機能することが望ましいのです。大事なのはくどくも>とくどくかの両方を満たすこと。より多くの人により多くの居場所があり、どんな人にも少なくともひとつの居場所がある状態を追求していくことが、居場所づくりの目指すべき方向性だと考えています。

IBASHOづくりが目指すべき方向性

【どくも】
より多くの人に
よりたくさん居場所を



【どくか】
どんな人にも
少なくともひとつの居場所を

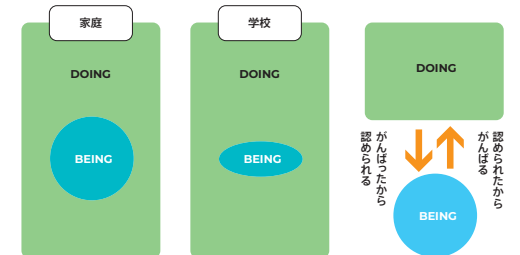
家庭も学校も、地域も公園も
友だちの家も駄菓子屋も、
図書館もコンビニも、
児童館も放課後教室も、
プレイパークも子ども食堂も…
AもBもCも…「どくも」

家庭や学校がダメなら
第三の居場所、
リアルがダメならオンライン、
出られないなら訪問、
どくもなければどくか創る…
AがダメならB…「どくか」

居場所づくりは、DOING(行動)と BEING(存在)のバランスが大切

「居場所」について考える際の手がかりのひとつ目は、「つながりたいけどしがらみは嫌だ」という気持ちに注目することです。仲間は欲しいけれど、束縛のないつながり方が理想とされています。2つ目は、居場所では「何かをする(DOING)」よりも「ただそこにいる(BEING)」ことが尊重されるのが望ましいかもしれない、という点です。学校では何かが得意な人が評価されがちですが、居場所では特別なことをせずありのままにいられることが大切です。例えば、部活がDOINGの場なら、家はBEINGの場というようにバランスを取ることもひとつの考え方です。この2つの手がかり以外にも、3つ目や4つ目があるかもしれませんし、異なる方向性が見つかるかもしれません。皆でモヤモヤしながら「いい居場所」について一緒に模索していきましょう!

手がかり IBASHOはDOINGよりもBEINGと親和性が高い?



INPUT [テーマ]生活者にとっての居場所とは



読売広告社
ストラテジックプランナー
藤田 剛士さん

PROFILE
都市生活研究所での経験を活かし、街・そこで暮らす生活者のインサイト、時代変化を読み解いたプランニング&ディレクションを武器に日々模索中。



読売広告社
ストラテジックプランナー/コンテキストデザイナー
秦 瞬一郎さん

PROFILE
社会の兆しを捉え、世の中と企業・ブランドの縫い合わせによって、市場創造と事業成長を推進するコンテキストづくりを大切にします。暮らしの中で見つける違和感が好きです。



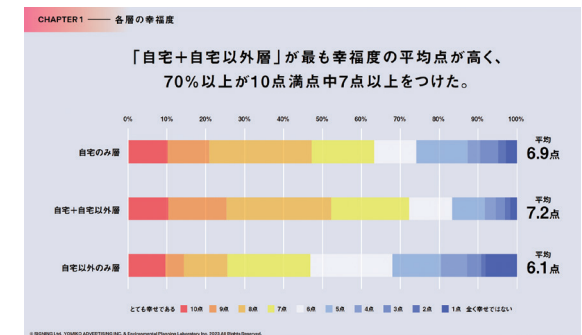
居場所とは「ひとりや誰かといること で感情を満たせるさまざまな場所」

「居場所ってなんだろう?」について、データを通して考えてみました。調査によると、自宅とそれ以外に居場所がある人の幸福度が最も高いことがわかります。自宅や学校、職場に限らず、図書館、カフェ、公園、SNSのチャット欄も「居場所」となり得るのです。こうした居場所には「リラックスできる」「安心できる」「ありのままにいられる」など多様な感情が求められ、複数の居場所があるほど幸福度が上がる傾向にあります。また、居場所には「ひとりで過ごせる場所」と「誰かとつながれる場所」の両方が求められることが多く、これにより一人ひとりの異なる感情やモードが満たされます。多様な居場所があることで、自分らしさを発揮し、多面的なつながりを持つことができ、より充実した人生が期待できるのです。



「人と場所」の関係性と感情から 新しい居場所が見えてくる

データから、居場所は「私自身の居場所(ひとりの空間)」「私とあなた(特定の人)」「私とみんな(集団)」の3つの関係性に分かれ、それぞれ求める感情が異なることがわかりました。例えば、「リラックス」はひとりでいるとき、「価値観の共有」は親しい人との関係で求められることが多い傾向です。また、年齢や関係性によっても居場所のニーズは多様で、幸福感にも影響します。一方で、居場所を見つけるのが得意な人もいれば、在宅勤務者や上京した若手社会人のように、環境的に居場所を見つけにくい人もいます。最近では、メタバースなどで登校に不安のある学生が段階的に戻ることができる「仮想居場所」も注目されています。居場所を探るには、多様なニーズや社会にとってのいい場所のあり方に目を向けることが重要だと感じています。



出典: SIGNING Ltd, YOMIKO ADVERTISING INC, Environmental Planning Laboratory Inc. IBASHO レポート, 2023, p.13.

INPUT [テーマ]フィールドワーク入門



博報堂コンサルティング
コンサルタント
岩佐 数音さん

PROFILE
デザイン・リサーチ、ブランディング、グローバルプロジェクトマネジメントなどの経験を活かし、機会発見から実装までを探索的な視点で支援。博報堂のグローバルチーム、ブランド・イノベーションの専門チームを経て、現在は博報堂コンサルティングに所属。



フィールドワークの醍醐味は、現場での体験から新しい視点を得ること

フィールドワークでは、現場に足を運び、直接観察や対話を通じて、統計や推測だけでは見えない「現実」を発見することができます。例えば、ある駅で自動販売機の上に「時計」を置いたところ、購入が増えたケースがありました。その理由は、「飲み物を買っている間に電車を逃したくない」という気持ちがあったからです。また、電気が通った村では、親戚に会いに行くまでの時間が増えた理由が朝の準備にアイロンを使うようになったからという発見もありました。フィールドワークの醍醐味は、実際に現場に赴き、観察や対話を通して「仮説検証型」ではなく「仮説発見型」で新たな視点を得ることです。予測だけでは捉えきれない行動の理由を探り、理解を深められることが、フィールドワークの価値と言えるでしょう。



フィールドワークの準備、実施、振り返りのポイント

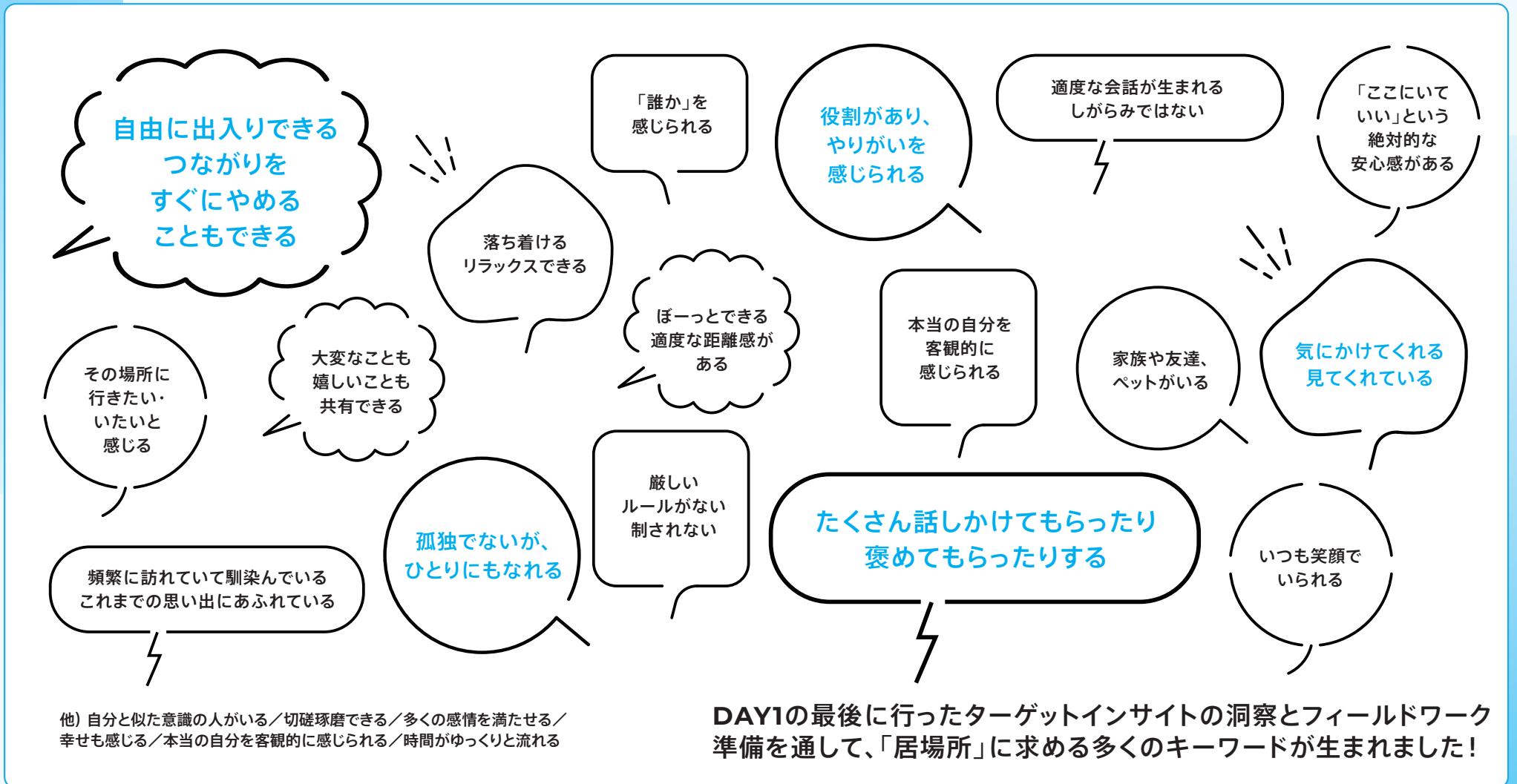
フィールドワークに行く前には、「観察の視点」をしっかりと持ち、現地で人々がどんな習慣や行動をしているか、なぜその行動が最適なのかを理解するために、「弟子入り」するような気持ちで臨みましょう。観察のポイントを整理するためには、AEIOUフレーム (Activities, Environments, Interactions, Objects, Users) の活用もおすすめです。現地ではインタビュアー、ノートテイク、写真撮影と役割を分担し、「観察したこと(事実)」と「気づいたこと(推測)」を分けてフィールドノートに記録することが重要です。終了後には振り返りの時間を設けます。「新しい問い」が生まれてくることも多く、次の調査の方向性や仮説のヒントにもつながります。自分の視点が刷新されるのを実感することが、いいフィールドワークの証です。

フィールド心得

- フィールド前 **観察の視点を持つ**
・弟子入りの気持ちで、謙虚に
- フィールド中 **事実も、感じたことも、しっかり記録する**
・役割分担をして、インタビューへ書き残さないように、全てメモ
- フィールド後 **時間をかけて振り返る**
・フィールドノートを、折に触れてじっくりと眺めてみる
・全体的／俯瞰的な視点と詳細な事実に基づく視点を行き来する

DAY 1

DAY1を通じて得られた居場所に関するキーワード





DAY 2



DAY 2

Time Table

全プログラムの流れ

DAY 1 ● 居場所の役割の再確認
● 新しい居場所の仮説検討



DAY 2 ● 居場所づくりの現場理解・実感



DAY 3 ● 新しい居場所のアイデア発想/全体発表



高校生にとって、ちょうどいつながりを保てる
新しい居場所のアイデア

2日目は、事前に行われたリサーチ手法の講義を踏まえ、実際に4つのこども食堂を訪れフィールドワークを行いました。参加した高校生たちは、現場での観察や食堂の関係者との対話を通じて、統計や推測だけでは見えない生の現実や人々の想いに触れる貴重な体験を得ました。

居場所のフィールドワーク

6チームが4つの「こども食堂」に赴きインタビューやお手伝いをしました。

- 各班それぞれのこども食堂へ訪問
- ▼
- 食堂内を見学
- ▼
- 食堂の運営の方・ボランティアスタッフにインタビュー
- ▼
- 実際に食事やお弁当の調理を体験
- ▼
- 訪問で感じたことをグループでシェア

「居場所」のフィールドワーク先

DAY2では「居場所」をテーマに、「地域の居場所」となっている4つの現場を訪れました。
ご協力いただいた、4つのこども食堂をご紹介します。

ハッピー大山子ども食堂



「大山の子どもたちに食のコミュニティを提供したい。」そんな想いから、スタートしたこども食堂。商店街の中という、安心な環境で、「食べる」というコミュニティをシェアキッチン「かめやキッチン」にて毎月開催。

むかいがわらこども食堂／じいじいず



子どもも大人も安価でおいしい食事ができる地域の「居場所」をつくろうと、約40年の料理人経験をもつ代表が、定年を機に新たなチャレンジとして始めた場所。毎日3食提供し、子どもだけでなく誰でも利用が可能。

要町あさやけ子ども食堂



「子どもにワイワイがやがや賑やかに食卓を囲んでもらいた」「日頃忙しいお母さんに一食分でもゆっくり過ごしてもらいたい」と、山田じいじの自宅兼パン屋を改装した、一軒家のこども食堂。遊び場も併設しています。

“がきんちょ” 地域食堂



中学生たちの発案で始めたというサークル活動が原点。その後、家庭での食が不十分な子どもたちを支援するために地域食堂をスタートし、家族全員分の食事を提供している。2021年には学習支援も始めました。

フィールドワークの様子

チームごとに異なるこども食堂でインタビューやお手伝いをしてそれぞれの「居場所」がもつ特徴や意義、利用者が感じる魅力を掘り下げて観察しました。



DAY 2

フィールドワークで得られた多様な居場所のあり方や、新たな気づき

高校生たちのフィールドノートに書かれた“気づき”の一部をご紹介します!

**外から中の
様子が見える**

入りやすい場づくり、
アットホームで居心地の
いい雰囲気づくり

**「皆が主体」
の雰囲気
づくり**

食事だけではなく、
**生きるための
知恵**を
与えることが
本当の支援

利用者とは適度な距離を保ち、
プライベートに**介入しすぎない**
あえてこの場だけの気軽な関係づくり

過ごしやすい場所にするために、
あえて深入りせず、表情をよく観察

地域とのつながりを大切に、愛され尊敬されて、
周囲からの協力を得て運営

迎え入れすぎず
「ちょっと寄って行く？」
のマインドで

「本当に困った」の前、
**「ちょっと困った」で
立ち止まれる
場所に**

来る人拒まず、
**去る人
追わず**

地元の協力が
あってこそ成り立つ

**誰でも
受け入れてくれる**
雰囲気づくりで、
皆が利用しやすい/
来たくなる場に

出典:「フィールドノート」より

Special Interview

ただ「居る」ためではなく、誰もが心を開ける 「話す」居場所を目指して



だんだん子ども食堂
近藤 博子さん

PROFILE

歯科衛生士として働いたわら、2012年より「だんだんワンコイン子ども食堂」をスタート。気まぐれ八百屋だんだん店主。地域活動が認められ、2019年農林水産省第3回食育活動表彰農林水産大臣賞受賞、2023年吉川英治文化賞を受賞。

ただ場所をつくるだけではない 「居場所」の本質

居場所づくりって、今すぐ話題ですよね。でも、ただ単に場所さえつければ人が集まってくるというものではないんですよね。大人が「ここが居場所だよ」と用意しても、そこで誰もが「ここにいてもいいんだ」と安心できるかは別の話です。居場所って、その場に自然と安心感があって、そこにいとホッとできる素のままでいられる場所のことなんだと思います。しかし最近、小さな気配りや優しさが少なくなってきたとも感じます。例えば、ちょっとしたおまけや気遣いがあると人の心は温かくなりますが、最近はその減り、心の余裕が失われているのかもしれない。家庭内の些細な優しさも、気持ちの安らぎにつながる大切な要素ですよね。些細な心遣いがあるだけで、どれだけ気持ちがあほくれるかを改めて実感します。

自然と生まれる 「居場所」が持つ力

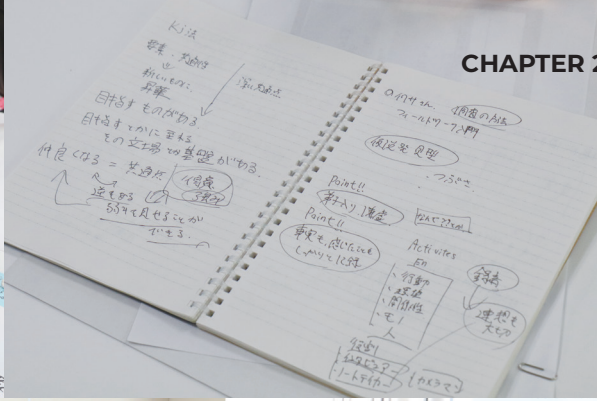
子どもたちって、公園や河原、土手などで、何もなくても工夫して遊びますよね。そんな

何気ない場所が、彼らにとっての「居場所」になっていたりします。「居場所がない」と焦って、大人の想いで場所を用意しても、それが子どもたちにとって本当に心地いい場所とは限らないんじゃないかなと感じます。例えば、不登校の子どもたちに向けた多様性のある学校や、青少年のための居場所も、設備を整えて提供しても問題が解決できるわけではありません。地域の子子どもたちが自然と集まり、大人と一緒にご飯を食べたり話したりするうちに「居場所」が形づくられていったケースもあります。こうして少しずつ人がつながることで、地域や学校、行政とも結びつき、温かい空気が流れるような場所に成長していくのです。

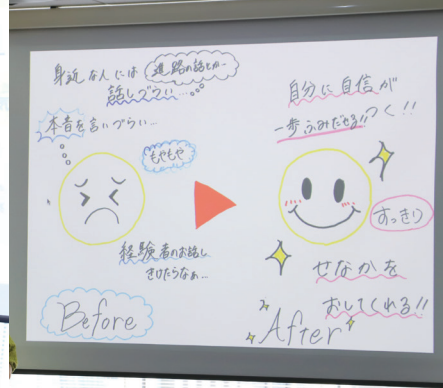


話し、想像力を育む「居場所」

居場所って、ただそこに「居る」だけの場所であることはもちろんですが、誰かと「話せる」場であることも大事だと思います。特に子どもたちは話す訓練の機会が少なく、言いたいことをなかなか言えない子も多いんですよね。だから、居場所には「話す場」という要素を含めることが重要だと思うんです。さらに、今の社会にもっと必要なのは「想像力」ではないでしょうか。例えば、誰かが何かをしたときに、それが周りにどう影響するかを考える力です。優しさだけでなく、目の前のことをちゃんと見て、そこから先を思い描ける想像力があれば、温かい社会をつくることできるはずですよ。話す場や居場所が増えることで、こうした想像力も育まれ、より豊かな社会へとつながるのではないかと思います。



DAY 3



DAY 3

Time Table

全プログラムの流れ

DAY 1 ● 居場所の役割の再確認
● 新しい居場所の仮説検討



DAY 2 ● 居場所づくりの現場理解・実感



DAY 3 ● 新しい居場所のアイデア発想/全体発表



高校生にとって、ちょうどいつながりを保てる
新しい居場所のアイデア

最終日は、これまでのワークをもとに具体的な「新しい居場所の提案」の発表を行う日。高校生たちはチームごとにアイデアをまとめ、全員の前でプレゼンテーションを実施しました。多様な意見とともに、居場所づくりへの意識をさらに深めていきました。

当日の流れ

- イン트로ダクション
- ▼
- Day2のダウンロード
- ▼
- グループワーク: アイデア発想とプレゼン準備
- ▼
- 新しい居場所のプレゼンテーションのルール説明・レビュー紹介
- ▼
- プレゼンテーション
- ▼
- レビュー講評
- ▼
- スペシャルインプット: Sophia Schuffさん[Gehl Architects]
- ▼
- クロージング

3日間を通して考えた新しい居場所のアイデアを プレゼンテーション!

アイデア発想 & 発表準備



これまでのインプットやワークを通して得た気づきをもとに、新しい居場所アイデアを発展させ、発表に向けた最終ブラッシュアップ。アイデア発想を通じて具体的なプランを練り上げ、プレゼンシートを作成しました。

プレゼンテーション



発表では、スケッチブック5ページ程度に「アイデア名」「ターゲット・インサイト」「アイデア詳細」「行動変化」「現状・未来」の要素をまとめ、ターゲットがアイデアをどのように体験するかを8分程度で物語形式にて表現しました。

スペシャリストによる講評

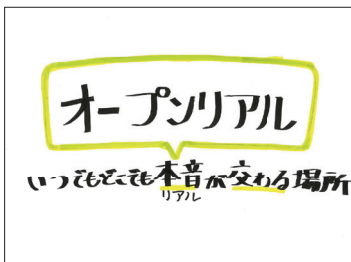


岩佐 数音さん(博報堂コンサルティング)、藤田 剛士(読売広告社)、中村 賢昭さん(Gehl/読売広告社)、湯浅 誠さん(認定NPO法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ)、中島 静佳さん(博報堂DYホールディングス)より、質問を交えながら、内容が深まる講評が行われました。

DAY3 まとめ:最終アイデア 1/3

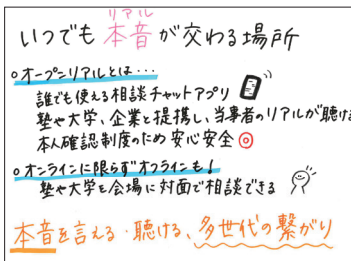
3日間のインプットやワークを通してまとめた、各チームのプレゼンシートをご紹介します。
個性豊かな6つの新しい居場所のアイデアが生まれました!

TEAM_1



コンセプト

「オープンリアル」は、進路に悩む高校生が気軽に本音で相談でき、背中を押してもらえる居場所です。ターゲットは、自分の進路を相談する際、身近な人よりも実際の経験者からリアルな意見を聞きたいと感じている高校生。進路に迷う若者にとって、信頼できる相談相手が必要であり、「オープンリアル」はそれを可能にします。



どんな場所?

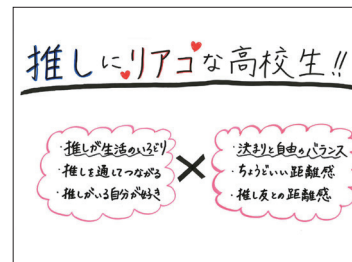
「オープンリアル」は、進路に特化したチャット相談アプリとオフラインで実際に面会できる場所があります。提携した塾や大学、企業の協力により、実際にその進路を歩んだ人から直接アドバイスが受けられます。アプリは、他のSNSと異なり、進路に特化したリアルな相談ができる場となっています。



どんな変化が起こる?

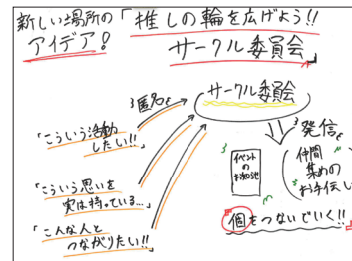
進路に対する不安や迷いが和らぎ、次の一步を踏み出すための自信がつかます。身近な人には話さず、進路に特化した相談の場で安心して打ち明けることができ、心も軽くなります。また、さまざまな立場の経験者からのリアルな話を聞くことで、今まで考えなかった選択肢が見つかり、進路に対する視野が広がります。

TEAM_2



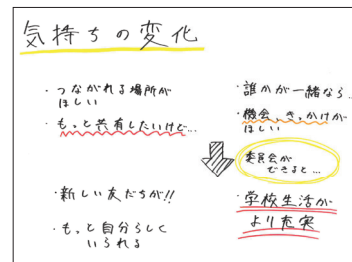
コンセプト

推し活を通じて自分らしさを大切にしながら仲間とつながれる場を提供することです。推しへの情熱を共有できるコミュニティとして、学校や家庭では話にくい「推し」について自由に語り合います。共通の興味を持つ高校生同士が集まり、安心感や楽しさを感じられる新しい居場所を目指しています。



どんな場所?

「推しのサークル委員会」では、メンバーが匿名で参加し、実現したい活動や企画を委員会に相談してサポートを受けられます。委員会は、サークルメンバーの募集や活動の支援、発表会やレクリエーションの開催を通じて、メンバーが気軽に交流できる場を提供します。自由に「好き」を表現できる安心の場です。



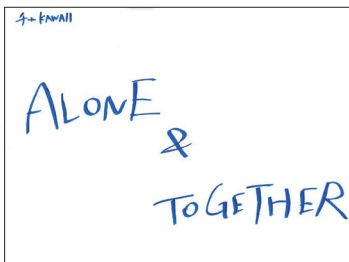
どんな変化が起こる?

「推しのサークル委員会」参加することで、推しを通じて共感を持つ仲間と気軽に出会い、自由に自分の「好き」を表現することが可能です。自分の思いを共有できる友人を見つけ、自分らしくいられる安心できる場を得ることが出来ます。学校生活もさらに充実し、自分の好きなことを大切にできる生活が送れるようになるでしょう。

DAY3 まとめ:最終アイデア 2/3

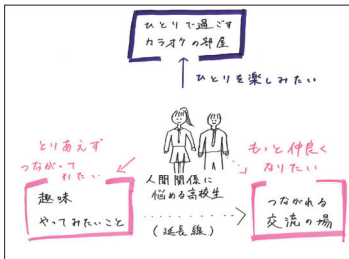
3日間のインプットやワークを通してまとめた、各チームのプレゼンシートをご紹介します。
個性豊かな6つの新しい居場所のアイデアが生まれました!

TEAM_3



コンセプト

一時的な人間関係を築きたい、または誰にも気兼ねせずひとりで過ごしたいと願う高校生のための居場所です。関係に縛られずリラックスして交流できる空間を提供することに重点を置いています。人付き合いが気楽にできる場所と、自分の趣味や興味で仲間とつながれる場を通じて、安心して自分を表現できることを目指しています。

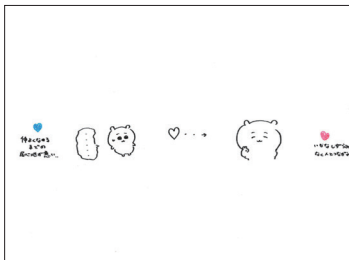


どんな場所?

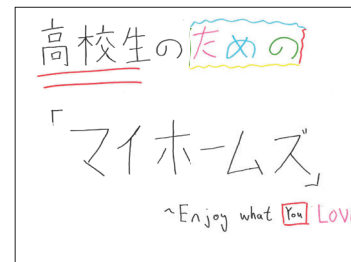
カラオケボックスのような個室をベースに、趣味ごとに時間割で区切られたブース形式のイベントスペースを展開します。例えば「アニメの時間」「音楽の時間」などのタイムテーブルが設けられ、参加者は自分の興味がある時間帯に参加することができます。深い交流を望む場合は、交流スペースへと進むこともできます。

どんな変化が起こる?

孤独感を和らげたり、自分と似た趣味の仲間と出会うことで気持ちが軽くなります。興味を同じくする相手と一時的に交流することで、緊張がほぐれ、人間関係に対する抵抗感も減少。無理なく交流を楽しみながら仲間との縁を深められるため、しがらみを感じることなく、安心して自分のペースで人と関わることができるようになります。

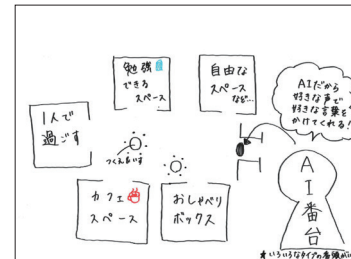


TEAM_4



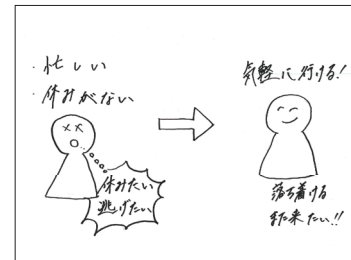
コンセプト

「高校生のためのマイホームズ」は、忙しくて休みがない、休みたいと思っている高校生たちのために、リラックスできる場所を目指しています。駅などに設置することで、通学や放課後にふらっと立ち寄り、心地よく安心できる空間を提供し、彼らの日常にゆとりやリセットの時間をもたらします。



どんな場所?

通学路に位置する駅構内に設置され、学生証を提示してアクセスできる専用空間。中には、好きな声で話しかけてくれるAI、ひとりで静かに過ごせるブース、勉強用のスペース、さらには学校外の友達と気軽にしゃべりができる「おしゃべりボックス」など、利用者がその時の気分に合わせて自由に選べるエリアが設けられています。



どんな変化が起こる?

「高校生のためのマイホームズ」を利用することで、時間に追われる高校生が、通学の合間に心を休めることができます。日常の喧騒から離れて気持ちをリセットでき、安心感を持ってまた訪れたい場所として、新たな友人とのつながりや安らぎを見つけたきっかけになることを目指しています。

DAY3 まとめ:最終アイデア 3/3

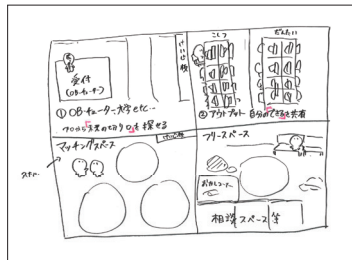
3日間のインプットやワークを通してまとめた、各チームのプレゼンシートをご紹介します。
個性豊かな6つの新しい居場所のアイデアが生まれました!

TEAM_5



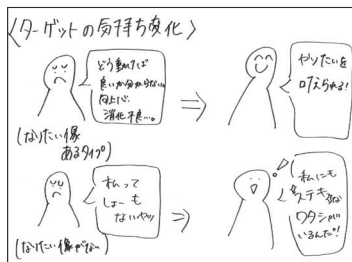
コンセプト

「シンクタンク(Think TanQ)」は、自分の「好き」を探求し、仲間とともにスキルや知識を共有できる新しい学びと交流の場を提供します。高校生が自分らしさを大切にしながら、成長や自己発見を支援する環境を目指し、専門的な知識やスキルを身につけたり、将来について考えるきっかけをつくる場所です。



どんな場所?

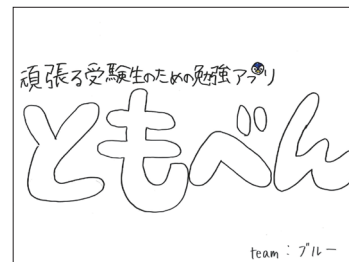
このシンクタンクは、OBや大学生チューターとともに「未来を探る」空間として予約不要で利用ができます。参加者は匿名でプロジェクトやスキルのアウトプットができ、実践的な活動も体験可能です。また、マッチングスペースで仲間と出会ったり、リラックスできるフリースペースでお菓子や雑談を楽しむこともできます。



どんな変化が起こる?

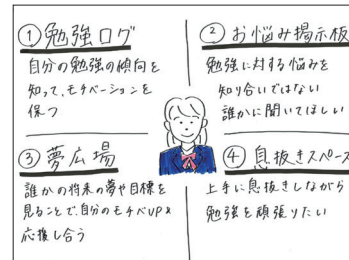
自分の好きなことや関心に向き合い、同じ興味を持つ仲間とつながることで、安心感や新たな発見を得られます。また、自分らしさを活かしながら多様な学びに触れることで、自信を持って新たな一歩を踏み出せるようになります。この環境が学校以外の居場所としても機能し、日常や将来への意識を豊かにしてくれることが期待されます。

TEAM_6



コンセプト

「ともべん」は、受験のプレッシャーに苦しむ高校生に向けて、孤独感を和らげ、仲間と励まし合う勉強アプリです。見知らぬ人との交流がもたらす気軽さを活かし、モヤモヤを共有し、匿名で思いを打ち明けられる安心の場を提供します。目指すのは、自分の進路や不安をオープンにできるコミュニティです。



どんな場所?

アプリには、「勉強開始」ボタンで同じ時間に勉強している利用者と匿名で交流できる機能があります。「勉強ログ」で学習時間を記録し、進捗確認も可能です。また、勉強の悩みを投稿できる「お悩み掲示板」や、夢や目標を共有してモチベーションを高める「夢・目標掲示板」、息抜き用のミニゲームも備えています。



どんな変化が起こる?

自分と同じように努力している仲間の存在を感じられるようになり、不安を抱え込むことなくモチベーションを維持することができます。匿名だからこそ、本音で悩みを打ち明けることができ、勉強の合間に励まし合うことで前向きな気持ちに。友達には話しづらい進路や不安を共有できる場が、受験期の心の支えとなりやる気を後押ししてくれます。

5名のスペシャリストによるプレゼンテーションの講評

湯浅 誠さん

認定NPO法人
全国こども食堂支援センター・むすびえ



プレゼンの中で印象的だったのは、匿名から始まりリアルにつながる順番がスムーズだという提案です。匿名性が初対面の不安を軽減し、安心感を持って関係を築ける仕組みは、特にオンラインでのコミュニティ構築に効果的だと感じました。一方、私たちが関わるこども食堂では、初めからリアルな接触が求められるので、若い世代が参加しやすい新たな仕掛けや入口が必要だと感じました。今回の発表をきっかけに、多くの気づきが得られました。

岩佐 数音さん

博報堂コンサルティング



プレゼンカの高さに驚きました。学生と社員の区別がつかないほど完成度が高く、今後も自信を持って挑戦してほしいです。特に、正しさだけではない、心理をつかんだ体験設計や、人とつながる際の不安やネガティブな側面への配慮が見事でした。また、TEAM1の提案では、社会人や卒業生にも新たな居場所を提供する可能性を感じました。他者への貢献が自分自身の振り返りにもつながる仕組みを活かし、さらに発展させてほしいです。

藤田 剛士さん

読売広告社



多様な考え方があることに気づかされました。居場所づくりでは、今の場所を改善するか新たな場所を探すか、ひとつの気持ちでつながるか矛盾を許容するかなど、どれも可能性があると感じました。また、悩みを共有するつながりと、楽しさや利点を総合するつながりの両面も興味深かったです。ブランディングでは「誰のためかを明確にする」「シンプルで解像度が高い」「キャッチーで議論を呼ぶ」の3点が重要で、多くの人を惹きつけるアイデアの基盤になると実感しました。

中村 賢昭さん

Gehl / 読売広告社



みなさんの発表を通じて、居場所のテーマが空間的なアイデアにとどまらず、組織やアプリケーションなど多様な形で柔軟に捉えられている点に感銘を受けました。また、居場所という言葉の多義性が多く、その可能性を秘めていることを再認識しました。特に重要だと感じたのは、場所のデザインにおいて「どのようなコミュニケーションや振る舞いが生まれるのか」をまず考え、その上で空間設計を行うという視点です。みなさんのアイデアにはすでに実践的な力強さを感じました。

中島 静佳さん

博報堂 DY ホールディングス



選択肢の重要性と助け合いの大切さを改めて感じました。プレッシャーから解放されたい人、向上心を持つ人、夢を追う人など、それぞれの状況に応じた選択肢を提供することが共通のテーマでした。また、目的が明確であることや、ルールの有無が居心地に影響する点も印象的でした。押し付けにならず、プレッシャーを与えない助け合いの形は、これからの社会で重要なテーマだと思います。みなさんと一緒に未来を考えられる日を楽しみにしています。

「匿名から始まる関係性」のアイデアが、安心感を生む有効な手法として高く評価されました。こども食堂の「リアル」を重視した居場所とは異なり、オンラインで徐々に関係を築ける設計が、高校生に適しているとの意見も出されました。また、「心理的設計」や「助け合い」の在り方についても注目され、「選択肢の提供がプレッシャーの解放につながる」という指摘がありました。多様な居場所のアイデアは、学校以外でのサポートが得られる重要性を再確認させる内容となりました。そして、学生たちのプレゼンカも素晴らしく、「社会人と同レベル」と称賛され、参加者が自信を持って発表できたことが伝わるプレゼンテーションでした。

Special Input

[テーマ] Making Cities for People & Planet



Gehl Architects
ポートフォリオディレクター
ソフィア シュッフ
Sophia Schuffさん

PROFILE

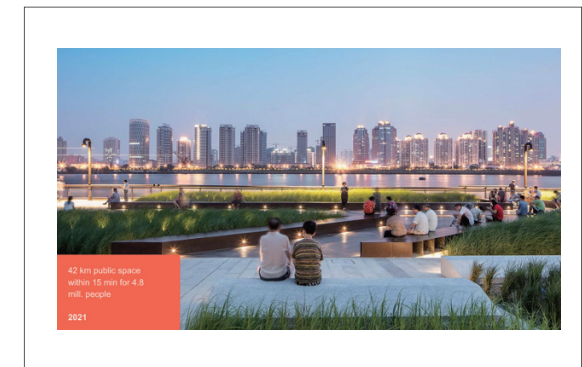
パブリックセクター & フィランソロピーチーム/ポートフォリオディレクター。都市人類学者として、エビデンスに基づく研究やコミュニティ開発を専門とし、公共空間や健康関連のプロジェクトを推進。主な実績にノボ・ノルディスクの「健康な近隣戦略」やGoogleの「グローバルプレイスメイキングプログラム」などがあり、講師や講演者としても活躍。

地域に根ざし、人々が自分の居場所と
感じられる空間をつくりだす

Gehlはデンマーク発の都市デザイン&戦略コンサルティング会社で、健康で公正、そして持続可能な都市を創ることを目指し、世界中でプロジェクトを進めています。私たちが取り組んでいる都市の中には、小さい場所もあれば、東京のような大都市もありますが、どんな場所でも人々の生活にどのような影響を与えるかを考え、人と地球のための都市づくりに取り組んでいます。私たちのアプローチの根底には、創設者ヤン・ゲールの、公共空間は人々にとって心地よいものであるべきという考え方があります。そんな私たちの使命は、建物の設計を超えて、地域に根ざし、人々が自分の居場所と感じられる空間を創り出すこと。私たちは、都市環境が人々の行動に与える影響を意識し、自然と安全で居心地のいい空間づくりを追求しています。

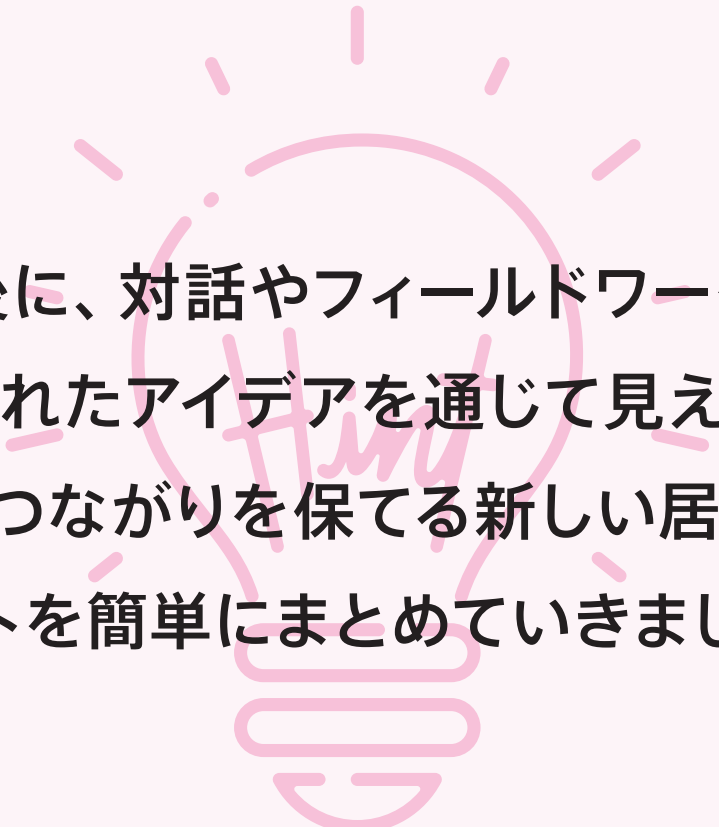
公共空間と公共生活を研究し、
持続可能で心地よい都市づくり

Gehlの設計アプローチは「Life(生活)」を最優先に据え、まず友人との時間やカフェでのひとときを大切に、次に施設や設備、最後に建物の設計に着手するという独自の手法です。ニューヨークのタイムズスクエアでは、歩行者専用空間を導入し、人々の行動変化をデータで確認しつつ恒久的な広場づくりを支援しました。また、上海では川沿いの公共空間を改善し、利用者が増え、健康にも貢献する空間となりました。私たちが目指すのは、公共空間と公共生活の研究を通じた持続可能で心地よい都市づくり。実現するにはデベロッパーだけでなく市が適切な規制を提供することで、市民が快適に過ごせる公共空間が増えることが理想です。今後も多様な文化や環境に寄り添いながら、人々と地球のための都市づくりを続けていきたいと思っています。



CHAPTER 3

新しい居場所づくりへの示唆



最後に、対話やフィールドワーク、
発表されたアイデアを通じて見えてきた
ちょうどいいつながりを保てる新しい居場所づくりの
ヒントを簡単にまとめていきましょう

その前に

参加したメンター社員が考える居場所観

プログラム終了後に改めて今回参加したメンター社員のみなさんに聞いてみました！

① 居場所に大事な要素とは？ ② これからつくりたい居場所は？



森本 千恵さん

- 「自然体でいられる温度感」。自分を偽ったりよく見せようと無理をする必要がなく、思ったことを素直に話したり、普段の自分のテンション・態度で周囲と接することのできる空気が大事。
- お酒を片手に、日本全国の伝統工芸について緩く学びながら、気軽に伝統工芸品づくりを体験できるギャラリ-Bar。



石津 理紗さん

- 自分でそこに行くか行かないか「選択」できること。集まる人たちが選択できるようにその居場所がどんな場所なのか明確になっていることも大事。
- 年齢関係なく、学びたい人が集まれる自習室。



国友 千鶴さん

- 絶対的な安心感がある。行ってもいいし行かなくてもいい。それでも待っていてくれる人がいる場所であること。
- 子ども食堂用のお米や野菜を栽培する農場を地域でつくり、高齢者や就労継続支援者、就労に悩む中高生などが協働して作物をつくって、本来は支えられている人も支える喜び、生きる喜び、つながる喜びをつくれる場所。



橋本 千里さん

- 強制や義務化されていないこと。いい意味でおせっかいがない場所であること。
- 年齢や性別で分けずに、新しい価値観や興味関心を持つ人達と触れ合える場所。



大原 美弥子さん

- つながりや役割があること。押しつけにならず、心地よい範囲で、自然体でいられる。人の感じ方も居場所の形もさまざま。アイデアを持った人が実践しやすい社会・環境も大切。
- オンライン・オフラインを自由に行き来できる仕組み。体が不自由な人も、ひとりでの外出が不安な人も、天気に左右されず、どちらでも会える。さまざまな世代がごちゃまぜにいる空間。



小川 莉歩さん

- 居場所をつくる人、そこに参加する人、どちらにとっても居心地のいい場所であること。
- 世代に関わらず、いろいろな人とつながったり意見がもたえたり、純粋にその場を楽しむことのできるスナック。



園本 彩乃さん

- 「自分の考えや存在を肯定してくれる相手がいること」と同時に、「そこに行けば相手に会える、自由に入出入りできる場所があること」が大切。
- 進路に悩む学生が、親や学校の先生以外の大人に、進路や職業のことを気軽に聞ける、公共施設に併設されたオープンスペース。



三島 智尋さん

- 暗黙のルール・明文化されているルールなど、適度な制約があること。自由過ぎる空間は、居場所の雰囲気や人によって左右されやすく、居心地の悪さにつながりやすい。
- 心を緩め、自分を見つめ直すきっかけになるオーダ-メイドフレグランス店。カラダ・ココロの状態に基づき、調剤師と会話し、心身の悩みを解決するフレグランスをつくることのできる。



鴨川 裕之さん

- 居場所は多様で、空間だけでなくYouTubeのコメント欄も居場所になりえる。適度な距離感とアクセスの自由さが重要で、深く干渉せずつながりがある場所や、人との対話も大事。
- パパ達の3rd place。パパ&子ども専用カフェ・パパ友交流ラウンジ等、仕事と家庭だけでなく、パパとしてのつながりを広げられるオンライン&オフラインの場所。



平片 悠太さん

- いい居場所とは、居場所のつくり手側が強制感や義務感といったものを感じておらず、本心からそこに関わりたいと思うような場所。
- 世代や時間を超えて、ファンがお気に入りのコンテンツについて語り合うことのできる、マンガやアニメの聖地。



河野 裕武さん

- 居場所との向き合い方は自分の内面とも密接に関わるため、その価値観を共有すること自体が照れくさく難しい。多様な中から好きな居場所につながれたり、好きな居場所をデザインしアクセスできること。
- デジタルの居場所ポータル。内なる自分の想い、求めるものを明らかにでき、掲載された多様な中から、自分に合った居場所につながる。物理的な施設だけでなく、デジタル上での直接的なつながりも。



中川 愛理さん

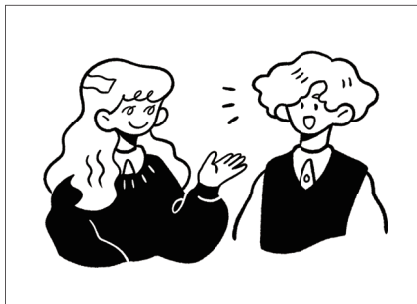
- 居続けなくてもいいし、そこにいる人とつながり続けなくてもいい、居場所と自分のつながりに対して心の余裕があること。
- 世代や性別問わず、仕事終わりにふらっと気軽に入れる雰囲気、店主を中心とした何気ない会話と徐々に生まれるゆるやかなつながりを楽しめるおでん屋台。

新しい居場所づくりのヒント

3DAYSのプログラムを通じて、見えてきたつながりをしがらみに変えない居場所づくりのヒントです。
これから誰かの居場所づくりをされるみなさんに、ぜひ参考にさせていただけたら嬉しいです。

“そのまま” ウェルカム

信頼関係や匿名性の担保があるから
自然体でいられ本音で話せる



“誰か” を感じられる

そこに行けば誰かがいる、
という強い安心感がある



出入り自由

好きなだけいていいし、
好きなときに出ていい



“NOルール” ではない

コンセプトや適度にルールがあるから
居心地のいい場が保たれる



みんなツクリテ

居場所に来る人や地域の人も、
みんなが少しずつ協力してつくる



つながり方はお好みで

つながりのテーマや手段、
程度は自分で選んでいい



“好き” をリスペクト

興味あることや推しへの愛を
気兼ねなく表現できる



孤独じゃないけどひとりにも

人とつながりながらも
ひとりになる時間もつくれる



居場所づくりに対するまとめ

Hasso Camp Project ミライ 2024 プログラムリーダー
博報堂

今井 郁弥さん



グラデーションの世界ゆえの懐の深さ

3日間を通じ新しい居場所をつくるたくさんのヒントが見えてきました。自由だけれど、無法地帯ではない。自然体でいいけれど、役割もある。誰かを感じられ、ひとりにもなれる。二項対立ではないグラデーションの世界だからこそ、多くの人を包む懐の深さをもつと気づかされます。今回高校生みなさんが本質的なコメントを多く残してくれたのが印象的でした。今の高校生ほどSNSやコロナ禍など、つながりを試される機会を経験している世代も珍しいかもしれません。そんな彼らだからこそ多くのヒントが湧き出たのだと思います。

あっちにもこっちにも居場所

「あっちにもこっちにもこども食堂」というこども食堂全体のビジョンを数年前に書きました。いつも行くコンビニも、たまに行く銭湯も、こども食堂になっている世界です。僕の今の気分は「あっちにもこっちにも居場所」。おかえりと言ってくれるご飯屋さんがあったり、泣きたいときに話を聞いてくれる逃げ場があったり。いろんな居場所が一人ひとりにある世界をつくれたら幸せなことだと思います。このレポートがきっかけになって、居場所に興味をもつ人、訪ねてみる人、つくってみる人、待ってます!!

認定NPO法人
全国こども食堂 支援センター・むすびえ理事長

湯浅 誠さん



「しがらみリスク」をできるだけ回避したい高校生のリアル
高校生みなさんのプレゼンを聞いて、「匿名性」から入って、一定のマッチングを経て趣味嗜好の合致した人同士で自己開示に至る、というプロセスが、リアル/オンライン問わず、ほぼデフォルトになっているらしいという点に新鮮な気づきをいただきました。私の表現で言うと、「合わない人と付き合わないといけない『しがらみリスク』」をできるだけ回避したいというウソ偽りない気持ちの表れだと受け取りました。

いかに自然に両立させていくか試行錯誤は続く

他方、多様性のある社会を包摂的にしていくためには、「合わないと思ってた人との意外な合致点の発見を楽しむ」ようなある種のタフさも必要で、タイパ偏重のみだとバブルに閉じ込められ、分断に至るリスクもあります。両者を「ホンネとタテマエ」に分離せず、能書やお説教ではない「自然」な形でいかに両立させるか、いかに両立できる社会を構築するか、そのための居場所をいかにデザインするか…居場所をめぐる試行錯誤は始まったばかりです。のびしろしかない Woo !

STAFF

プログラムリーダー

今井 郁弥 株式会社 博報堂

スペシャリスト

湯浅 誠 認定NPO法人 全国子ども食堂支援センター・むすびえ理事長
藤田 剛士 株式会社 読売広告社
秦 瞬一郎 株式会社 読売広告社
岩佐 数音 株式会社 博報堂コンサルティング
中村 賢昭 株式会社 読売広告社
Sophia Schuff Gehl Architects

事務局

中島 静佳 株式会社 博報堂DYホールディングス
中溝 修平 株式会社 博報堂DYホールディングス
永田 奈々子 株式会社 博報堂DYホールディングス
豊嶋 帆奈美 株式会社 博報堂DYホールディングス
齋藤 真鈴 株式会社 博報堂DYホールディングス
豊崎 実紀 株式会社 博報堂プロダクツ
二子 真希子 株式会社 博報堂DYアイ・オー
謝 せんせん 株式会社 博報堂

参加社員

河野 裕武 株式会社 博報堂
園本 彩乃 株式会社 博報堂
中川 愛理 株式会社 博報堂
平片 悠太 株式会社 博報堂
大原 美弥子 株式会社 博報堂プロダクツ
橋本 千里 株式会社 博報堂プロダクツ
国友 千鶴 株式会社 オズマピーアール
三島 智尋 株式会社 大広
鴨川 裕之 株式会社 HakuHodo DY ONE
森本 千恵 株式会社 HakuHodo DY ONE
小川 莉歩 株式会社 HakuHodo DY ONE
石津 理紗 株式会社 博報堂DYメディアパートナーズ

Hakuhodo DY holdings

〒107-6320 東京都港区赤坂 5 丁目 3 番 1 号
URL : <https://www.hakuhodody-holdings.co.jp>



**Hasso
Camp Project** 